

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立丹波支援学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	丹波支援学校高等部1～3年生 30名 京都先端科学大学生3年生 5名 京都先端科学大学生3年生 23名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・障害者への理解を深め、共生社会の形成に資する。 ・スポーツを通して、自己肯定感を高めるとともに、他者を尊重し協働する態度を養う。
5 取組内容	<p>・R2.11.4 先端科学大学生5名との交流 大学生 5 名が来校し、本校高等部5組(知的障害、肢体不自由)生徒の体育科の授業(サーキットトレーニング)を見学。その後、本校高等部生徒が約 30 名集まり、大学生が取り組んでいるスポーツ(サッカー、バスケットボール)の実演を見学、高等部生徒とのミニゲームを実施した。</p> <p>・R2.11.18 先端科学大学での講義 高等部総括主事が先端科学大学へ出向き、障害についての基礎知識、支援方法、丹波支援学校での体育科の授業について講義を行った。</p>
	

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • 先端科学大学生が取り組んでいるスポーツを見ることで、憧れの気持ちを抱くことができた。また、一緒にスポーツをすることで、他者を認める気持ちが育ったり自己肯定感が高まったりした。 • 先端科学大学生にとって本校生徒と関わったり、講義を聴いたりすることで障害理解教育につながった。 • 先端科学大学生が全京都障害者スポーツ大会(陸上競技)にボランティアで参加することで障害者理解がより深まった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、先端科学大学生には2週間前から検温実施を依頼し、当日を迎えた。 • 直接交流は難しいため、事前に本校における体育科の授業をビデオ撮影したり、体育担当者から指導案の作成の仕方、授業における支援の工夫等を聞き取ったりし、講義に盛り込んだ。 • 本校生徒も毎日検温し、当日発熱等のある生徒は参加を控えた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 口丹地域の高校生の交流会中止に伴い、間接的な交流を検討すべきであった。 • オンラインでの交流も模索していく。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 先端科学大学との交流は、毎年度実施していく。本校生徒が先端科学大学へ出向くことも検討する。 • 地域との取組の中で障害者スポーツ交流を実施する。